無名の家臣に「助平」の名

大部屋出身の俳優 土平ドンペイさん(53)＝草津市㉖

はい上がる人 わたしの歩跡

「功名が辻」で山内一豊の家臣を演じたドンペイさん(中央)ら。初めはペラペラのよろいだったが、位が上がり、しっかりした作りになった

《NHK大河ドラマ「功名が辻」(2006年)に山内一豊(上川隆也さん)の家臣として、赤い鼻で出演した》

上川さんと一豊の妻千代を演じる仲間由紀恵さんの出演場面に割とずーっと出ていたんですよね。

京都の大部屋時代に、人がいっぱいいる中で、カメラに映るのはプロ級だったのが大河に役立ちまして。50㍍ぐらい全力で走って照明の下でピタッと止まって、はっきりカメラに顔を映させるんです。カメラのレンズのサイズを見たら、横が入るのはここまでっていうのも感覚でわかるんですね。

家来や侍女たちが僕の後ろにかぶって止まることもあって、「モニター見てごらん。そこで止まったら、俺の肩にちょっとかぶってるやろ。視聴者は気持ち悪いねん。半歩だけこっちに出たらええよ」とか、カメラのアングルも教えてあげてたんです。そしたら、みんなから「ドンペイさん、ここどうなってるの」って聞かれたりして。

いついなくなってもおかしくない役なのに、3カ月ぐらい続けて結構な場数に出て。監督が「上川さんと仲間さんの芝居を集中して見てしまうんで、後ろはドンペイさんお願いねっ」って冗談めかして言われるときもありました。

5カ月後に名前ももらえたんですね。なんやろ、原作を見て、これかなこれかな。付いた名前が「助平」だったんですね。「すけひら」って平安末期の刀工と同じ読み方かなと思っていたら、監督たちは「すけべえです。ドンペイさんらしい名前でしょ」。「ちょっと待て、俺、すけべやけどな。でも、NHKですけべえなんて誰も言えへんやん」って返したら、上川さんが「ドンちゃん、大丈夫。俺がちゃんと言うから」。

視聴率が良かった43～45話。関ケ原の戦いで、山内家は掛川城(現静岡県)を明け渡して、徳川家康に貸してあげるんですよね。僕らは自分の城が目の前にあるのに、野ざらしで寝るんです。僕が「殿、まことに徳川様は勝てるのでございましょうか」って言うと、上川さんが馬上から初めて「すけべえ……」って呼んで。ネットでも「やっぱり、すけべえだったんか」って話題になりまして。

最終回も出演、涙の花束

助平は結局、最終回まで残って、殿が亡くなって仲間さんと、一番の家来を演じる前田吟さんと僕とで殿の亡きがらを見送るんです。

収録最終日に花束をいただいたんですよ。4人ぐらいしかもらえない1人にしてもらえて。報道陣が300人くらい来るイベントです。僕ねえ、「ありがとうございました」って号泣して。仲間さんとか周囲が「ドンちゃん、ドンちゃん」って励ましてくださって。「実は京都の大部屋出身の俳優なんです。大部屋にいるとき、一生の目標は大河ドラマに出ることやったんです。大河に出たらもう死んでもいいと思ってました。1回の出演でもうれしいのに、最終回まで出していただき、もうほんとに死んでもいいです」

【編集局・大澤重人】

＝つづく、水曜掲載

「功名が辻」の撮影が終わり、花束をもらってあいさつをするドンペイさん(手前)＝いずれも本人提供

「水曜日が楽しみに」

ドンペイさんがフェイスブックで発信し、コメントに返事を書いています。読んだ方から「土平ドンペイという名前は、映画のクレジットの中に毎回見てました。インパクトがあり、その他大勢からはい上がったすてきな名前」「水曜日が楽しみになってきてる私です。職場で毎日新聞をもらって読んでます」とのコメントが寄せられました。